

幸せを引寄せ 千万町神楽

春は多くの実りを願う農耕民にとって大切な季節として捉えられています。千万町町では、幸せを引き寄せると伝えられている里神楽が八劔神社の祭礼で奉納されます。

ここで伝承されている里神楽は、歌舞伎を取り入れた嫁(女)獅子です。女の着物を着て獅子舞を行います。この形式の里神楽では、県内で一番長く受継がれているもので、神楽の演目としては、「幕の舞」と「鈴の舞」のみ行っています。

使用する楽器は笛・太鼓それに唄が入ります。獅子が御幣と鈴を持って、地域に幸せ(五穀豊穰・悪霊払い・天下泰平・村内安全)を引寄せると伝えられています。神楽は獅子頭を着ける「舞手」、後ろでササラをする「才藏」と呼ぶ舞方・笛方・囃し方(太鼓・歌方)で構成され、最低一〇人は必要と言われています。八劔神社の祭礼では、北東二ヶ所先の若宮社への神輿渡御が行われ、若宮社でも神楽奉納が行われ、才藏のふざける仕草と掛け合い茶番が見どころです。この里神楽のことが記録として最初に



若宮社前での神楽奉納(掛け合い茶番)

見られるのは、宝暦元(一七五二)年のこととで、八劔神社祭礼時の余興として拝殿で舞ったことが記されています。祭礼日は、かつては毎年四月一六日でしたが、現在は四月第三日曜日の八劔神社例大祭で神楽が奉納されています。

この里神楽は、昭和三九(一九六四)年に愛知県無形民俗文化財に指定され、地域の人々や保存会の努力で現在まで伝えられています。ぜひ、訪ねていただきたい祭りの一つです。

図書館交流プラザ岡崎むかし館主任専門員

野本 欽也

大動脈瘤の話

—忍び寄る命の危機—

「元気だった知人が突然亡くなった。大動脈のコブが破裂したらしい」といった話を耳にされたかたもいると思います。これは大動脈のコブ、即ち大動脈瘤が破裂して瞬時に大量出血した致死的病状と考えます。

大動脈瘤は大動脈壁の一部が膨らみ瘤状に突出したもので、原因の多くは動脈硬化です。お腹の真ん中にドクドク拍動している塊を触れば腹部大動脈瘤かもしれません。立派過ぎるお腹では体の奥にあるので触ってもわかりません。他の症状は乏しいので急に激しい痛みを伴う破裂が初めての自覚症状となることもあります。大動脈瘤は超音波(エコー)検査やCT検査などをしてしないとわかりません。一方、精密検査で大動脈が正常であれば数年間は大丈夫という報告もあります。

自覚症状が乏しいので治療の目的は破裂予防です。破裂危険度と

治療危険度のバランスで経過観察か治療開始か、方針が決まります。大動脈瘤の大きさや形によっては早期に治療が開始されます。治療は標準的な人工血管置換術と負担の少ないステントグラフト移植術があります。各治療法の特徴と瘤の状態、年齢や持病などを総合的に判断して治療法を選択します。他に、前兆なく突然致死的事態に陥る大動脈の病気に急性大動脈解離があります。年間発症は10万人当り3〜10人で、その多くに高血圧が影響しています。日常的な血圧管理の重要性を示しています。突然死を防ぐために大動脈の検査をお勧めします。

岡崎市民病院 心臓血管外科

統括部長 湯浅 毅

市民病院を受診する際は「かかりつけ医」の紹介状をお持ちください。